

みくまの 9月号 マンスリータイムズ



支援できるボランティアの育成を図って

障害のある子どもたちを正しく理解してもらい、共感と支援の輪が広がることを願って、本年度もボランティアスクールを開催しました。

地域の高等学校の生徒15名の方が、障害者スポーツや児童・生徒との交流などの体験を含めた5つの講座に参加していただきました。

スクールを終えての感想を少し紹介させていただきます。

(Aさん)

相手に対して思いやりを持とうとする気持ちが強くなった。見ただけでは分かりにくい障害もあるということを学んだので、これから様々な人と出会うなかで、小さな変化に気づき、自ら行動していこうと思った。

(Bさん)

最初は、障害をもった子どもたちと交流するのはとても大変で難しいのかなと考えていた。もちろん、伝えたいことがすぐに伝わらなかったりしたこともあったが、ゆっくり伝えたり、ジェスチャーをつけたりすることで伝わることもあったので、障害だからとか関係なく普通に接することができるのだと感じた。

(Cさん)

日常の何でも無いものだと思っていることを不便だと思う人がいたり、逆に存在する意味が分からなかったものをもとても便利だと思っている人がいたりするのだということを学んだ。今後は、様々な視点から一つの物事をみてみようと思うようになった。



教職員や保護者同士のつながり



昨年度に引き続き、育友会と共催で、夏期休業中の8月27日(火)に運動場整備を行いました。今年度は、昨年度の2倍近い保護者の方々と、本校生徒1名の参加がありました。当日は天候が危ぶまれましたが、曇りとなり涼しかったため、作業がはかどりました。



作業中は、教職員や保護者同士で児童生徒の様子や時事問題などを話しながら、あっという間に1時間が経ち、予定していた範囲の草引きが終了しました。

当日参加していただいた保護者の方々、どうもありがとうございました。



教員の専門性向上のために

夏期休業中に、教職員や保護者を対象に、様々な研修や訓練を実施しました。

外部講師を招いたり、本校の教員が講師になったりして、救命救急講習や携帯電話安全教室、事業所体験研修、施設見学、火災避難訓練、ICT研修、不審者対応訓練、医療的ケア研修、いじめ・人権研修など、様々な研修や訓練に取り組みました。

教員の専門性向上のための学びの場となり、また、児童生徒が安心安全に日々を送るため、改めて気を引き締める機会となりました。

医療的ケア研修の様子



不審者対応訓練の様子

